

## 1 事業の概要

区分	令和8年度	令和7年度	増減	増減率
給水戸数	254,000 戸	252,700 戸	1,300 戸	0.5%
給水量(年間総量)	47,713,000 m <sup>3</sup>	47,499,000 m <sup>3</sup>	214,000 m <sup>3</sup>	0.5%



- ▶ 令和8年度当初予算の給水量は、7年度決見を基に減少を見込んだ結果、当初予算比較では、給水戸数は1,300戸の増、年間給水量は0.5%増となる4,771万m<sup>3</sup>（給水収益は減免により減）
- ▶ 直近10年間では、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で在宅時間が増えたことなどにより一時的に給水量が増加したものの、その後は再び減少傾向（令和6決算 4,835万m<sup>3</sup>⇒7年度決見 4,811万m<sup>3</sup>⇒8年度予算 4,771万m<sup>3</sup>）
- ▶ 令和2年度、4年度、8年度は基本料金の減免の影響あり（令和4年度、8年度は一般会計補助金により補てん）

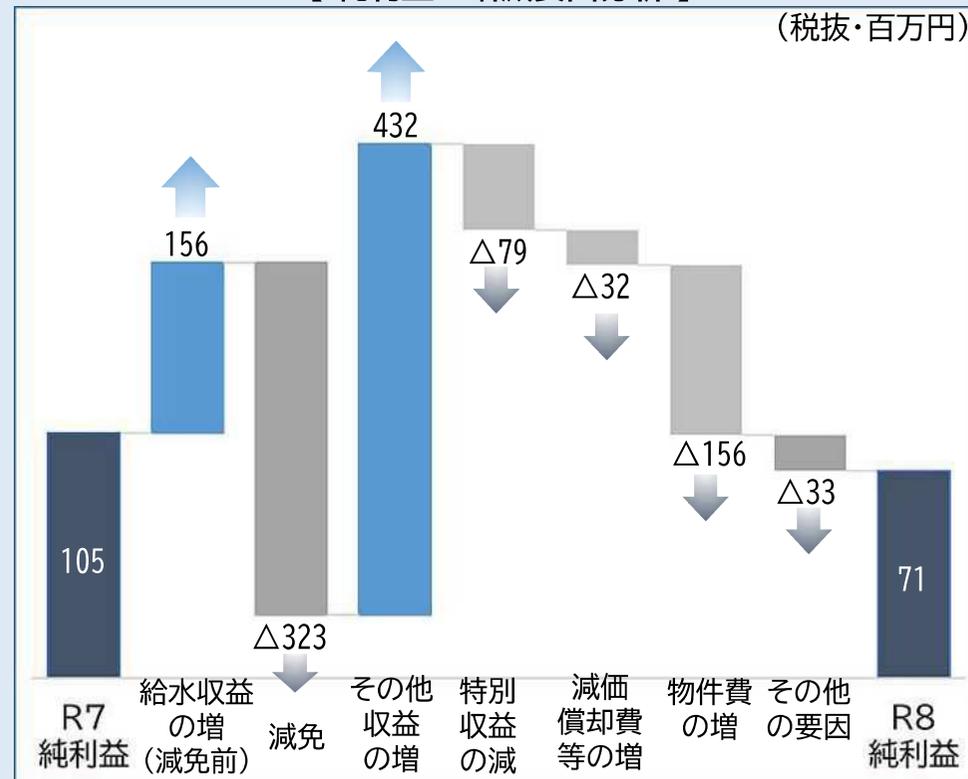
## 2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

（税込・百万円）

		令和8年度	令和7年度	増減額
収益的収支	収入	9,593	9,418	① 175
	支出	9,250	9,147	② 103
	収支差	343	271	72
	純利益（税抜）	③ (71)	(105)	(△ 33)
資本的収支	収入	2,271	1,178	1,092
	支出	4,984	2,924	2,060
	差引(A)	④ △ 2,713	△ 1,745	△ 968
補てん財源(当年度発生分)(B)		2,002	1,794	208
資金収支(A+B)		△ 712	48	△ 760
資金残高		⑤ 6,905	7,617	△ 712

【純利益の増減要因分析】

（税抜・百万円）



- 収益的収支の収入は1億8千万円の増（①）、支出は1億円の増（②）、純利益は3千万円の減で7千万円(③)
- 資本的収支不足額は27億1千万円（④）で、その補てんを反映した資金残高は69億1千万円（⑤）

- 純利益は、経常収益の面で改善要因があった（減免前の給水収益は増、減免分は一般会計補助金で補てん）ものの、特別収益の減や物件費の増などの悪化要因があり、全体では3千万円の減

## 3 収益的収支・資本的収支の内訳

### 収益的収入

(税込・千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額
水道事業収益	9,593,452	9,418,220	175,232
経常収益	9,593,451	9,339,127	254,324
給水収益	8,091,995	8,275,434	△ 183,439
長期前受金戻入	125,474	127,022	△ 1,548
その他収益	1,375,982	936,671	439,311
特別利益	1	79,093	△ 79,092

### 収益的支出

	令和8年度	令和7年度	増減額
水道事業費用	9,250,220	9,147,356	102,864
経常費用	9,245,220	9,142,356	102,864
人件費	953,460	935,625	17,835
給料・手当等	876,568	868,721	7,847
退職給付費	76,892	66,904	9,988
動力費	132,742	137,400	△ 4,658
薬品費	43,172	41,698	1,474
受水費	3,899,573	3,899,973	△ 400
減価償却費等	1,704,990	1,672,923	32,067
支払利息	163,855	148,236	15,619
物件費	2,347,428	2,306,501	40,927
特別損失	5,000	5,000	-

### 資本的収入

(税込・千円)

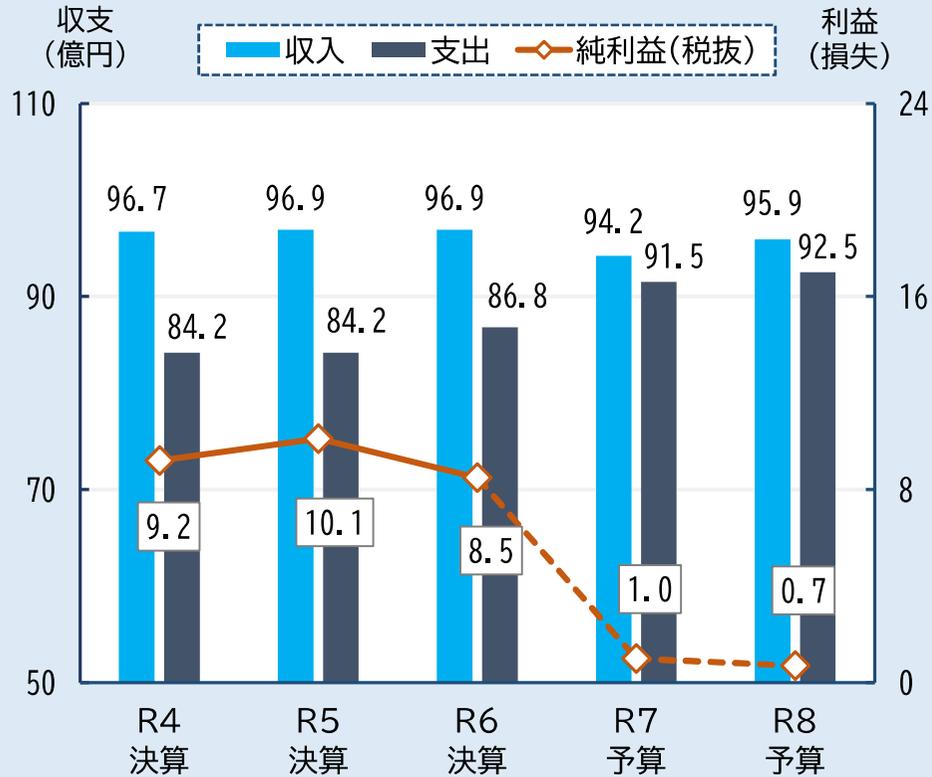
	令和8年度	令和7年度	増減額
水道事業資本的収入	2,270,604	1,178,342	1,092,262
企業債	2,200,000	1,100,000	1,100,000
負担金	70,603	78,341	△ 7,738
固定資産売却代	1	1	-

### 資本的支出

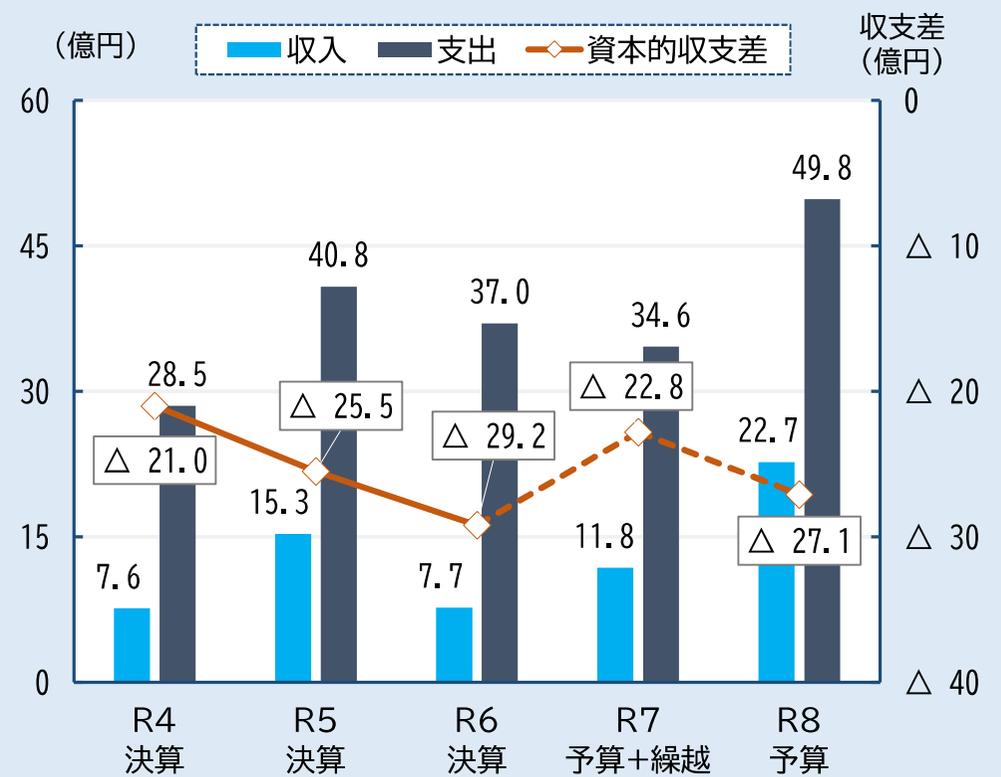
	令和8年度	令和7年度	増減額
水道事業資本的支出	4,984,045	2,923,792	2,060,253
人件費	156,410	141,433	14,977
建設改良費	3,911,697	1,850,478	2,061,219
企業債償還金	912,938	928,881	△ 15,943
予備費	3,000	3,000	-

## 4 収益的収支・資本的収支の推移

【収益的収支の推移】



【資本的収支の推移】

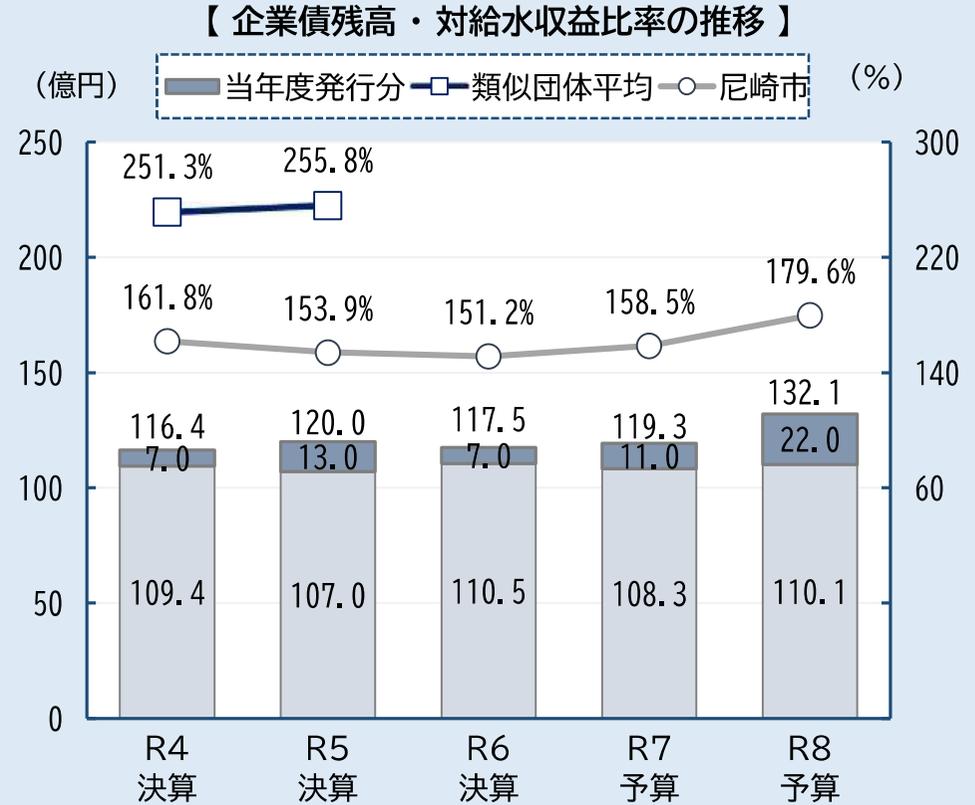
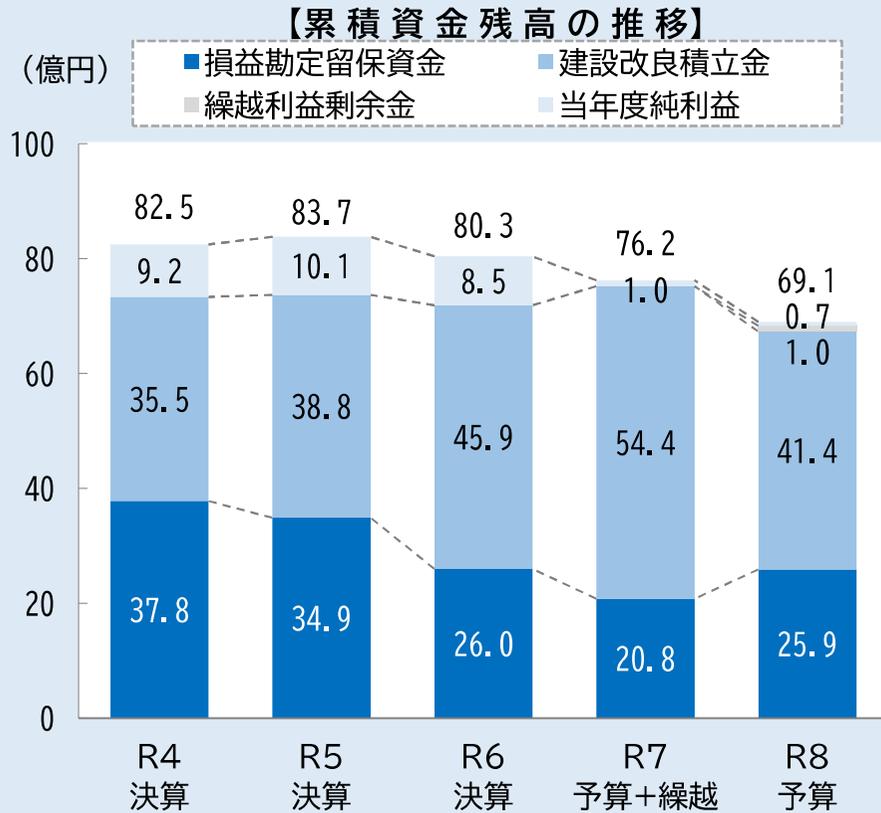


- 主な収入は給水収益 (80.9億円)
- 主な支出は受水費 (39.0億円)、減価償却費 (16.5億円) など
- 収益的収支の支出は年々増加しており、純利益は減少傾向

- 主な収入は企業債 (22億円)
- 主な支出は建設改良費 (39.1億円)、企業債償還金 (9.1億円) など
- 資本的収支不足額は損益勘定留保資金等により補てん

※ ( ) 内はR8予算

## 5 累積資金・企業債残高の推移（ストックの視点）



資金収支の推移

(億円)

	R4	R5	R6	R7	R8
資本的収支の差(A)	△ 21	△ 26	△ 29	△ 23	△ 27
補てん財源(B)	25	27	26	19	20
資金収支(A+B)	4	1	△ 3	△ 4	△ 7

※R4～6:決算、R7:予算+繰越、R8予算

企業債の発行・償還・残高の増減

(億円)

	R4	R5	R6	R7	R8
発行額(A)	7	13	7	11	22
償還額(B)	9	9	9	9	9
残高の増減(A-B)	△ 2	4	△ 2	2	13

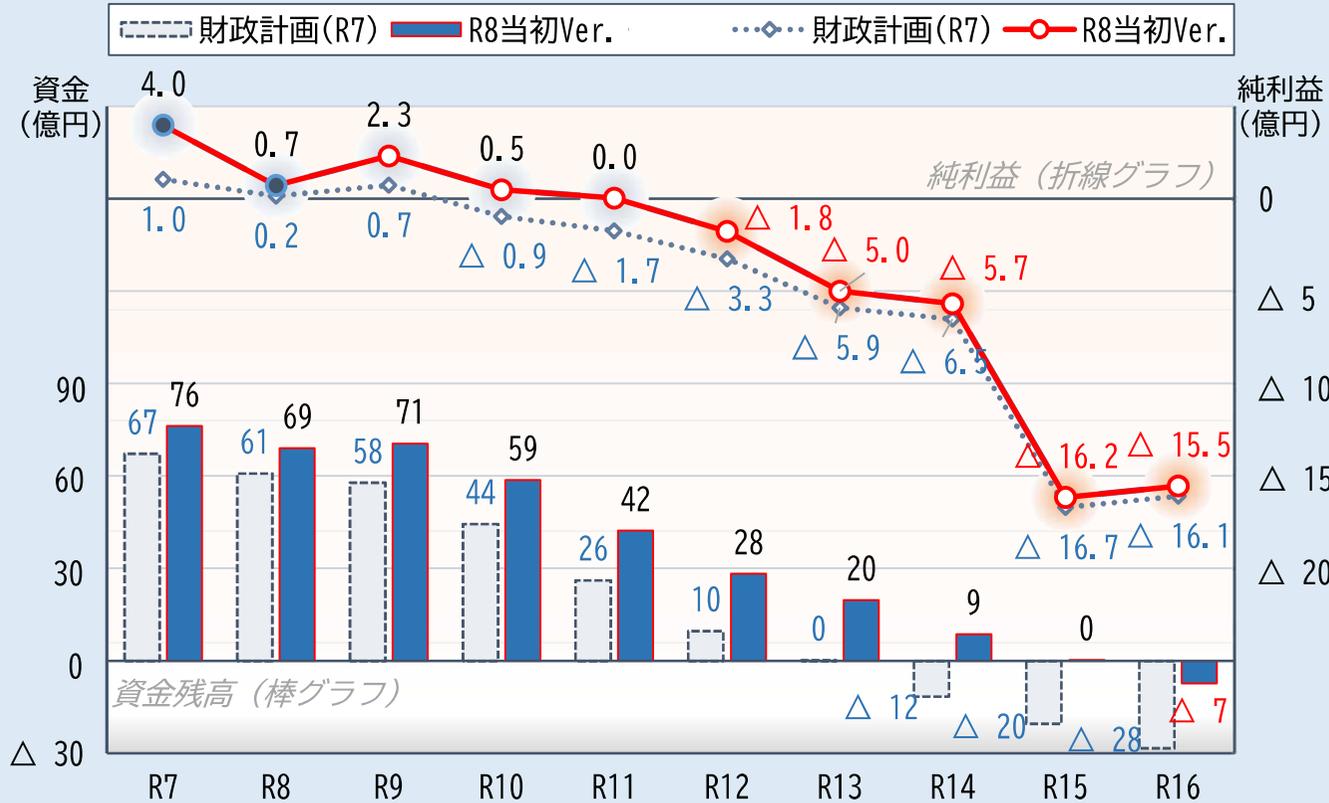
※R4～6:決算、R7～8予算

※企業債残高対給水収益比率：企業債残高 ÷ 給水収益

※類似団体：給水人口30万人以上の末端給水事業

## 6 財政計画との比較（収支見通しのローリング）

【 収支見通し（折線グラフ・右軸） 】  
 【 資金見通し（棒グラフ・左軸） 】



【収支見通し(純利益)】

(億円)

	R7	R8	R9	R10	R11
財政計画(R7)	1.0	0.2	0.7	△ 0.9	△ 1.7
R8当初Ver.	4.0	0.7	2.3	0.5	0.0
差引	2.9	0.6	1.6	1.4	1.8

	R12	R13	R14	R15	R16
財政計画(R7)	△ 3.3	△ 5.9	△ 6.5	△ 16.7	△ 16.1
R8当初Ver.	△ 1.8	△ 5.0	△ 5.7	△ 16.2	△ 15.5
差引	1.5	0.9	0.8	0.5	0.5

【資金見通し】

(億円)

	R7	R8	R9	R10	R11
財政計画(R7)	67.2	60.9	57.8	44.5	26.1
R8当初Ver.	76.2	69.1	70.6	58.7	42.2
差引	9.0	8.2	12.8	14.3	16.1

	R12	R13	R14	R15	R16
財政計画(R7)	9.7	0.2	△ 11.7	△ 20.5	△ 28.4
R8当初Ver.	28.2	19.7	8.7	0.3	△ 7.3
差引	18.5	19.6	20.3	20.8	21.1

- 水量予測、事業進捗等を基に置換（給水収益 & 受水費、建設改良費 & 企業債・減価償却費等、人件費、物件費等）
- 主に給水収益の上振れ（R9-16平均：▲2.6億/年）等により、赤字が見込まれるタイミングはR12年度（置換前：R10年度）資金不足が見込まれるタイミングはR16年度（置換前：R14年度）となるなど置換前と比較すると見通しは一定改善
- しかしながら、引き続き給水収益の減や各種支出面の増の傾向が続くものと見込んだ結果、今後も収支の悪化は継続
- R15年度以降、神崎浄水場再整備に伴う減価償却費の増等により更に収支不足が拡大する見込み